



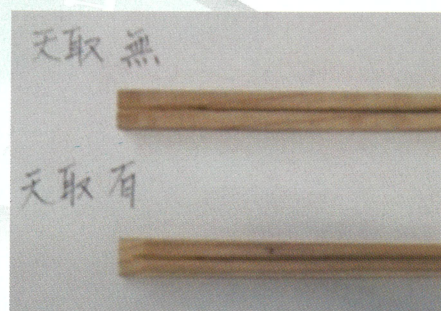
屋久島の地材（間伐材）を活用した 割箸の試作品開発

平成24年度 補正予算事業

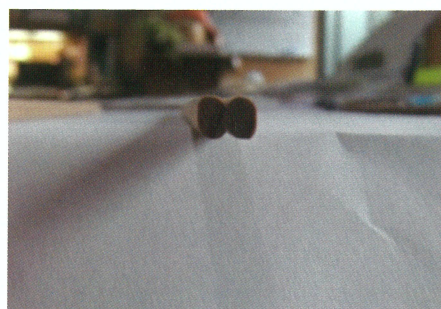
実施した事業の概要と成果

世界自然遺産の島「屋久島」の地材材（間伐材）や林地残材等を有効活用し、熱処理による乾燥及び切削加工により防腐剤や漂白剤を一切使用しない、安心・安全な国産割箸を製造することができた。県内では初めての取組みで、新規性があり原料（原木）が全て自社内で調達可能で、山での伐り出しから製材、加工まで一貫した生産が行えることからコスト的にも優位性が高く、色・香り・持ちやすさ等、屋久島独自の自然を生かした架け箸が完成した。

原材料の乾燥には、化石燃料を使用せず、鋸くず、木片等を燃料とした乾燥用ボイラを用い、ゼロエミッションへ配慮した。さらに、箸としての使用後は、バイオマス燃料として島内外の薪ボイラでの使用も計画している。間伐材や林地残材の積極的な活用により、治山・治水をはじめ森林整備や山の再生に大いに貢献することが高いと判断されれば、新たな人材の雇用・育成、シルバー人材の採用にも繋がる。



天取の有無



割り箸先端

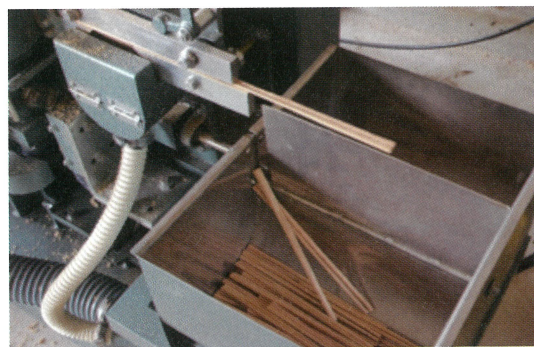


技術開発や課題解決への取り組み

従来の割り箸にはないより品質の高い製品を作るためには、山での伐り出しからが重要であると考慮しチェーンソーによる造材を今までより少し根元を除いて切るようにした。間伐材及び小杉（直径が小さい）の為、節・曲がり・腐れ等の部分が多く、分別・選定作業等で材料確保には苦慮した。割箸に適合する丸太材の集材及び選別には、現場である山・地域により質の差があり多くの時間を要した。また新開発の薪ボイラによる中温簡易乾燥機で、しっかり乾燥することが出来、薬品等を使用しなくてよいので安心安全である。箸製造機からでてきた割箸の全体的なガサツキがなくなり、角をとることができ手触りがよく使いやすくなり、天取りをすることで高級感が増し、屋久杉工芸品のようきれいで高品質の割り箸ができた。



原材料（間伐材）置き場



割り箸製造

事業者 有限会社 橋口木材加工センター

代表者 代表取締役 橋口 猛

設立年月 平成17年12月

所在地等 〒891-4311
熊毛郡屋久島町安房2353-285
TEL: 0997-46-2242
FAX: 0997-46-4420
E-mail: 2rn47a@bma.biglobe.ne.jp

事業区分 ものづくり技術

資本金額 300万円

従業員数 3人

業種 素材生産業、製材・木製品製造業

有限会社 橋口木材加工センター の

生魂
いっただまし

代表取締役
橋口 猛



補助事業取り組みへのきっかけ・目的は？

現在、日本国内では年間250億膳の割箸が使われているが、その98%が海外からの輸入品（うち99%は中国製）である。しかし、輸入品には防腐剤や漂白剤が使用されているのに対し、国内産は自然のもののみで作られた安心・安全な割箸であり、消費者ニーズに合致している。そのなかで屋久島の地杉材を活用した割箸の開発は初の試みであり、新規性に加え一貫した生産が行えることでコスト的にも優位性が高く収益性の向上が見込まれる。

今後の取り組みは？

箸として使用した後は、島内外の薪ボイラでバイオマス燃料として使用することも計画している。間伐材や林地残材の活用により、治山・治水をはじめ森林整備や山の再生に大いに貢献したい。

まずは、屋久島のお土産用として島内のホテルやお土産店で販売する。またイベント等に参加し県内外にPR活動を続けながら、販売先を広げ、取引先（販売店）や消費者のニーズに合致したものを製品化し販売していく。